

◎10月3日(日)及び16日(土)開催
第3157回例会
ふるさと兵庫100山

「神々が降臨した北摂の秀峰・大船山へ」

布引支部 吉野 宏

北摂の数ある山の中で、人気度ベスト3内に入る「大船山(おおふなやま・おおふなさん)」。わずか標高653.1Mの低山ではあるが山姿の良さに加え、コースも解り易く、又、山頂からの展望も一部は木々の成長で見にくくなってはいるものの、素晴らしい山であると言えるだろう。古来、神々が地上に降臨される時は、やはり三角錐の格好の良い山を選ばれるのであろう、同じ北摂にある「千丈寺山」同様、山頂には神様をお迎えするために作られた石組みの祠「磐境・いわさか」が残っている。



市原の里から望む大船山

兵庫県山岳連盟が創立50周年を記念して出版した「ふるさと兵庫50山」の中で、北摂三田市で只1山だけが選ばれた理由も理解出来る。ヒヨコ登山会の例会でも過去3回は例会に取り入れ開催してきた記憶が残っている。

その大船山を、今回も又、例会に加えた理由は、人気度の高さもさることながら、コロナ禍の渦中、いかに静かな山登りが出来るか?であった。加えて、過去行なった例会は、春季の緑まぶしい時期ばかりであったように記憶している。

したがって、個人的に訪れた数回の中で、初秋か

ら晩秋にかけての時期も趣が有って良かったので、例会案に組み込んで発表し、委員会で承認を得た。

募集ポスターを掲示したところ、40名の方が参加を希望。三田からのバス乗車を考えると、20名が限度と判断し、急遽2回に分けて行うことにした。

10月3日(日)三田駅北口8時50分集合。9時30分発のバスに乗車し、26分で終点の波豆川バス停に着いた。主たる登山口は東側に2か所、西側に1か所あるが、今回は大船谷に沿って大舟寺跡経由で山頂をめざすコースを選んだ。と言うのも、かつてこの時期、この谷沿いでたくさんアケボノソウに出逢ったことが有り、古い町石の点在する過去の本道に魅力があったからである。



登山道沿いに咲いていたアケボノソウ(3日撮影)

2時間足らずもあれば充分山頂に立てるので、先に「大舟寺・だいしゅうじ」を訪ねることにした。稲刈りを済ませた田畑を眺めながらのんびりと歩く。

過って大舟寺は百済の日羅と言う僧が開創し、後に空海(こうぼうたいし)が来て「大舟寺」と石に刻み、七堂伽藍を建立したそうだが、大船山中は霧が深くて湿気が多いので建物が崩れかけていた為、江戸時代に現在の場所に移築されたそうである。



大舟寺にて/バックはカヤの大木（県指定文化財）



大舟寺にて/バックの茅葺屋は鐘楼（16日撮影）

20分程で見学を済ましバス停に戻る。登山道入り口はすぐ傍で、大船谷沿いに結構広い林道を思わせるような旧参道へ入る。しかし、すぐに石がゴロゴロした道となり、登るにつれて結構荒れた道になってくる。・・・



ここでちょっと一休み！（3日撮影）

アケボノソウは、この辺りの沢筋に近い所で見たような記憶があったんだがな〜・・・と先頭を歩いていると、・・・ありました！！なんと、少し水気のある場所でしかも結構日差しの良い場所に並ぶようにして咲いていた！！



満開に近い状態のアケボノソウ（16日撮影分）

思い思いにスマホカメラに納め、勾配の増してきた登山道を登って行く。滝のある道と巻道に分かれる場所まで来ると大舟寺跡はもうすぐである。そして山頂へ至るコルはすぐそこだ。



峠手前の大舟寺跡地にて/説明板に見入る参加者

11時40分、コル（分岐）着。左にとって、急登を10分余り登れば山頂である。ところが、ここからの標高差約120メートルある急登がこの山のクセモノでもある。しかし、この急登の斜度が、これだけきつく無ければ、三角

錐の格好の良い山の形にはならなかつたらうし、神様も見向きもせず、降臨はされなかつたでしょうね！？



山頂での昼食タイム（3日撮影）

下山はそのコルまで下り、左にとって峠に出、更に左にとって、県道37号線のバス停十倉へ下った。

16日の山行時は、バス停前の小屋で、丁度地元の組合が経営している貸農園で収穫されたばかりの枝豆を直接買うことが出来た。

（ご馳走様でした！）



十倉側からの登山口の表示板

天候 3日（日）・16日（土）共に晴れ

参加者 3日/21名 16日/19名